

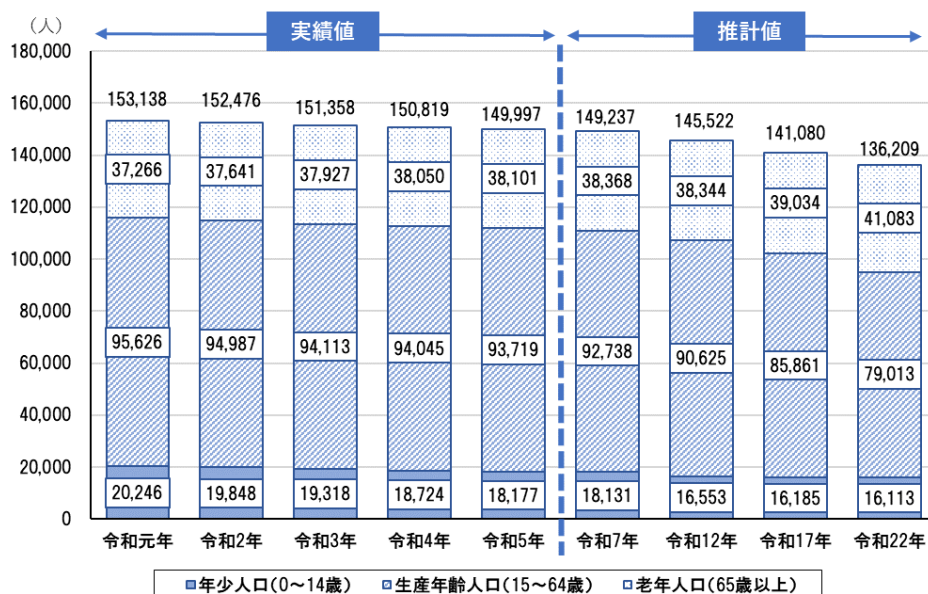
第2章 小牧市の健康を取り巻く現状・課題

1. 人口・人口動態

(1) 年齢3区分別人口の推計

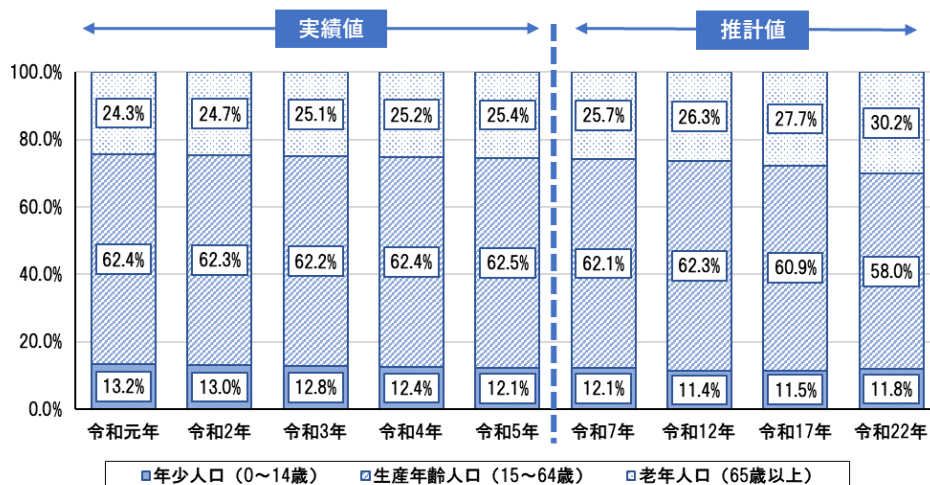
本市の人口は、令和5年10月1日現在、149,997人で、緩やかに減少傾向にあります。年齢3区分別の人口の推移をみると、0～14歳の年少人口、15～64歳の生産年齢人口は減少傾向が続く一方で、65歳以上の老年人口は増加傾向となっており、本市においても年々少子高齢化が進んでいます。

図表 1 年齢3区分別人口の推移



資料：〔令和元年～令和5年〕住民基本台帳（各年10月1日時点）、
〔令和7年以降〕小牧市まちづくり推進計画改定に係る基礎調査

図表 2 年齢3区分別人口割合の推移

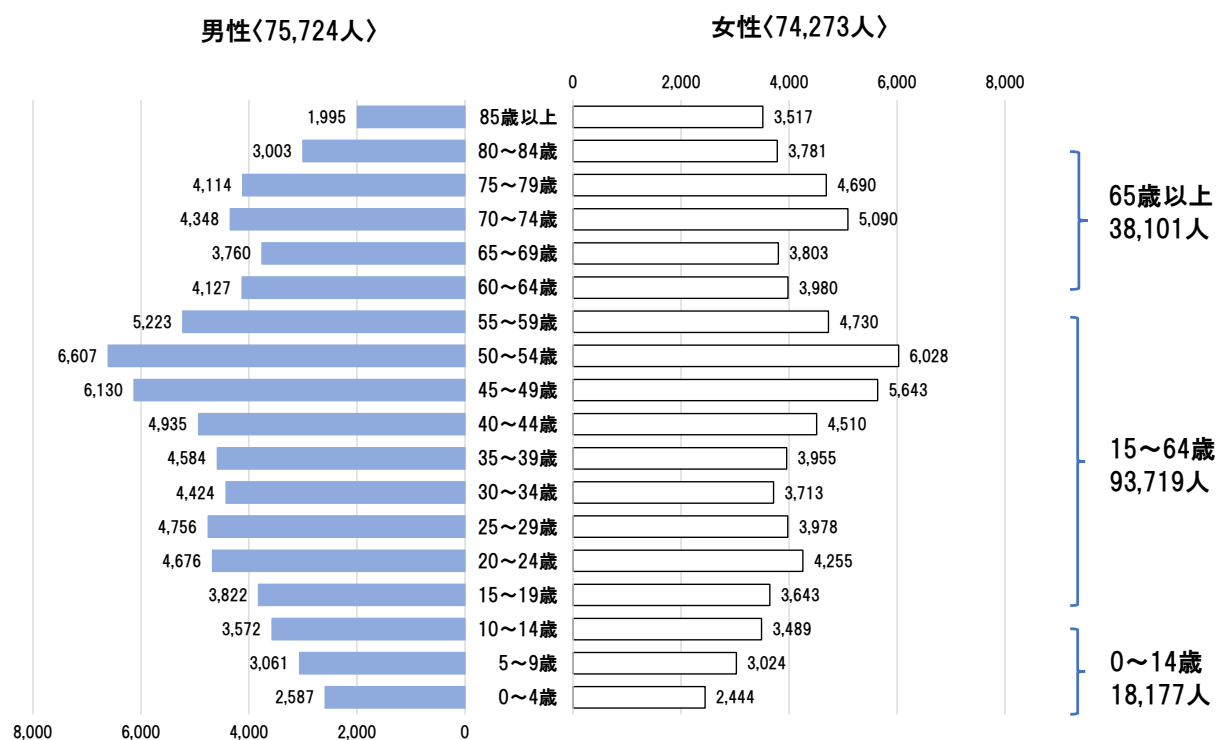


資料：〔令和元年～令和5年〕住民基本台帳（各年10月1日時点）、
〔令和7年以降〕小牧市まちづくり推進計画改定に係る基礎調査

(2) 人口ピラミッド

本市の年齢5歳階級別男女別人口は、男女ともに50～54歳が最も多くなっています。64歳以下では男性が女性を上回っており、特に25～29歳では男性の方が778人多くなっています。一方で、65歳以上になると女性が男性を上回っており、85歳以上では女性の方が1,522人多くなっています。

図表 3 年齢5歳階級別男女別人口



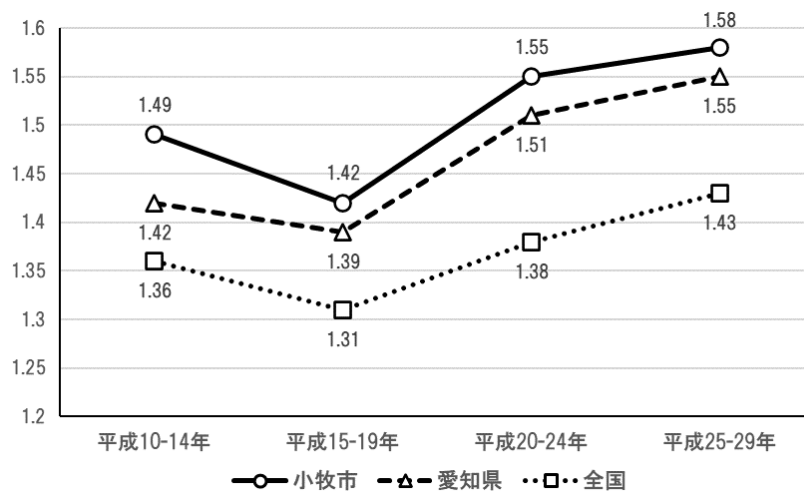
資料：小牧市年齢別人口統計表（令和5年10月1日時点）

2. 出生・死亡

(1) 合計特殊出生率の推移

本市の合計特殊出生率は全国や県よりも高い値で推移しており、平成25-29年の5年間の平均では1.58人となっています。

図表 4 合計特殊出生率の推移



資料：厚生労働省 人口動態保健所・市区町村別統計

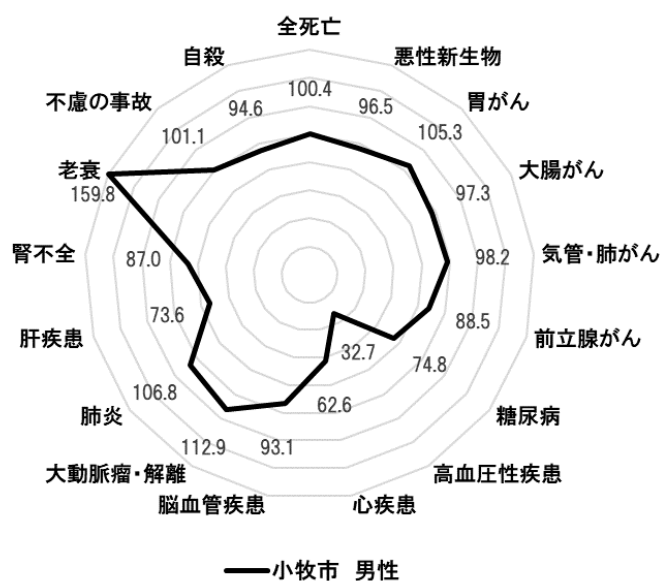
※合計特殊出生率とは、出産可能年齢（15～49歳）の女性に限定し、各年齢の出生率を合計し、ひとりの女性が生涯、何人の子どもを産むのかを推計したものです。市町村別の合計特殊出生率については、出生数の少なさによる影響で数値が不安定となるため、5年間の平均値を算出することで、地域間の比較が可能な指標としています。

(2) 死因別標準化死亡比経験的バイズ推定値

全国を基準（100）としたときの本市の死因別標準化死亡比をみると、男性では「老衰」が159.8と最も高く、標準化死亡比が100を超える死因は「胃がん」「大動脈瘤・解離」「肺炎」「不慮の事故」となっています。

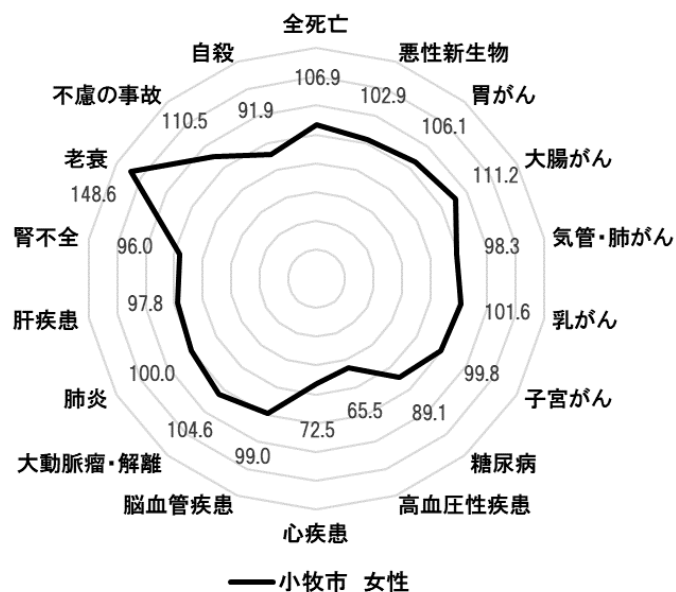
女性でも男性と同様に「老衰」が148.6と最も高く、標準化死亡比が100を超える死因は「胃がん」「大腸がん」「乳がん」「大動脈瘤・解離」「肺炎」「不慮の事故」となっています。

図表 5 標準化死亡比経験的ベイズ推定値(男性)



資料:愛知県衛生研究所

図表 6 標準化死亡比経験的ベイズ推定値(女性)



資料:愛知県衛生研究所

※標準化死亡比とは、人口構成の違いを除去して死亡率を比較するための指標です。値が100より大きい場合は全国平均よりも死亡率が高く、100より小さい場合は全国平均より死亡率が低いことを意味します。

※市町などで死亡数が少ない場合、偶然変動の影響を受けて数値が大幅に上下するため、観測データ以外にも対象に関する情報を推定に反映させることが可能な標準化死亡比の経験的ベイズ推定量(EBSMR)を指標に用いています。

3. 平均寿命・健康寿命

小牧市の平均寿命は男女ともに延伸傾向にあります。男性の平均寿命は、平成22年以降全国よりもやや長く、県よりもやや短くなっています。女性の平均寿命は、平成22年以降全国と県よりも短い傾向にあり、令和2年では全国よりも0.3年、県よりも0.2年短くなっています。

図表 7 平均寿命

(年)	男性			女性		
	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
小牧市	79.7	81.0	81.7	86.0	86.7	87.3
愛知県	79.7	81.1	81.8	86.2	86.9	87.5
全国	79.6	80.8	81.5	86.4	87.0	87.6

資料：厚生労働省「市区町村別生命表」

注：国、県、市での比較をするため、国、県についても、市区町村別生命表を利用

健康寿命について、一般的に使われる健康寿命は、3年に1度の国民生活基礎調査で把握する「日常生活に制限のない期間の平均」で算出されます。平均寿命と健康寿命の差を縮め、健康な期間を延ばすことが目指すべき方向性となります。

市町村ごとにおける健康寿命は、国民生活基礎調査ではデータが得られないことから、要介護2以上を「不健康」と定義した「日常生活動作が自立している期間の平均」を利活用することで、補完的に指標として健康寿命を算定します。

これにより算出した本市の健康寿命は、男女ともに延伸傾向にあり、平成22年から令和元年にかけて、愛知県の平均とともに全国平均よりも長い値で推移しています。

図表 8 健康寿命（補完的指標）

(年)	男性				女性			
	平成 22 年	平成 25 年	平成 28 年	令和元年	平成 22 年	平成 25 年	平成 28 年	令和元年
小牧市	79.05	78.93	80.43	80.34	83.33	83.53	83.93	84.19
愛知県	78.40	79.11	80.01	80.36	83.23	83.44	84.00	84.38
全国	78.17	78.72	79.47	79.91	83.16	83.37	83.84	84.18

資料：（国・県）健康寿命の算定・評価と延伸可能性の予測に関する研究-2019年の算定、2010～2019年の評価、2020～2040年の予測-「日常生活動作が自立している期間の平均」

（小牧市）厚生労働科学研究の健康寿命の算定方法（「日常生活動作が自立している期間の平均」

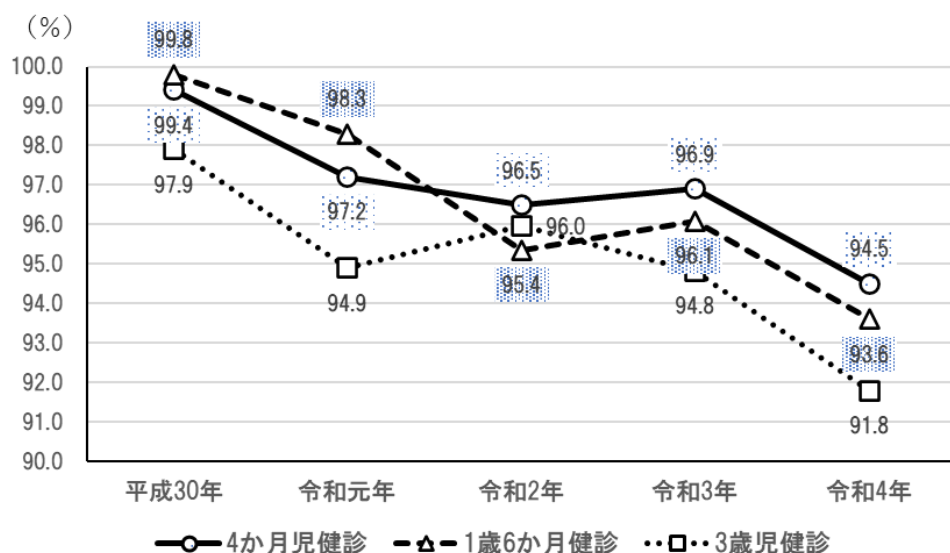
※介護保険の要介護度のデータを活用）をもとに算出

4. 健(検)診の状況

(1) 乳幼児健康診査の受診率

本市の乳幼児健康診査の受診率はいずれも90%台と高い一方で、平成30年以降緩やかに減少傾向にあります。

図表 9 乳幼児健康診査の受診率の推移

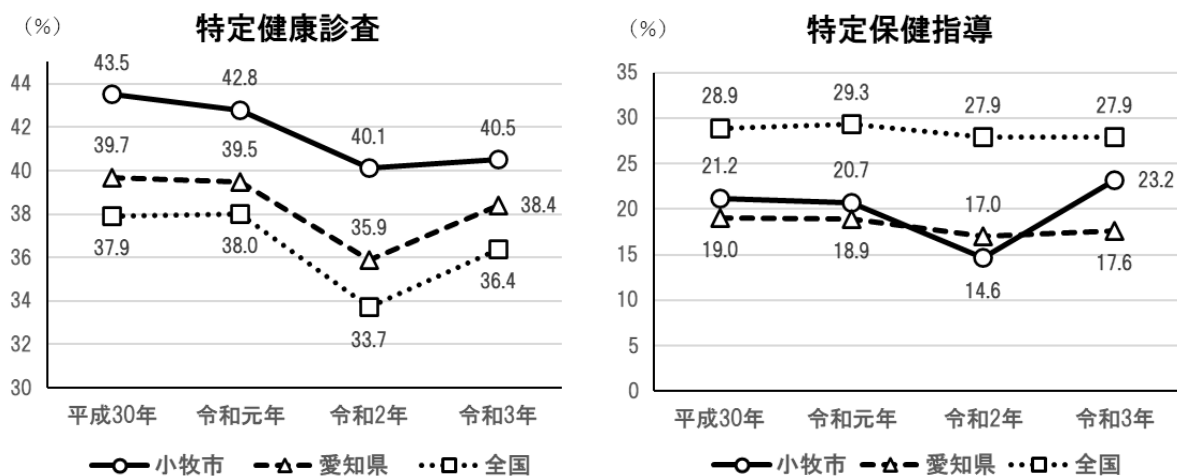


資料:こまきのけんこう

(2) 国民健康保険特定健康診査・特定保健指導の受診率

本市の特定健康診査の受診率は全国や県よりも高いものの、40%台にとどまっています。特定保健指導の受診率は令和3年に23.2%まで増加しましたが、依然として全国よりも低い受診率となっています。

図表 10 特定健康診査・特定保健指導の受診率の推移

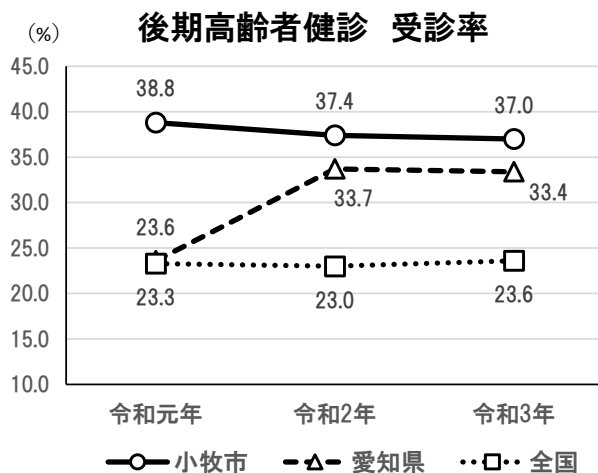


資料:あいち国保健康レポート、国民健康保険中央会「市町村国保特定健診・保健指導実施状況(速報値)」

(3) 後期高齢者健診の受診率

本市の後期高齢者健診の受診率は全国や県よりもやや高いものの、受診率が依然として低く、令和3年で37.0%となっています。

図表 11 後期高齢者健診受診率の推移

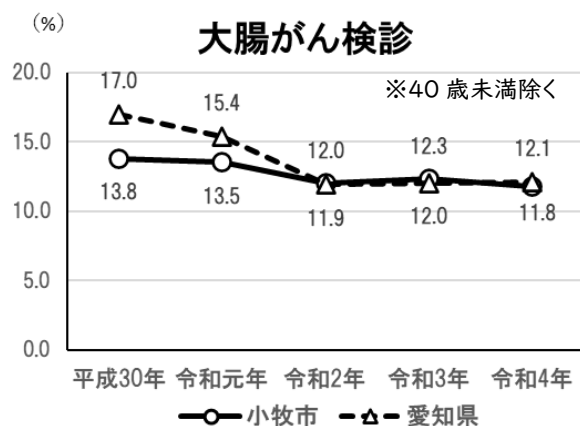
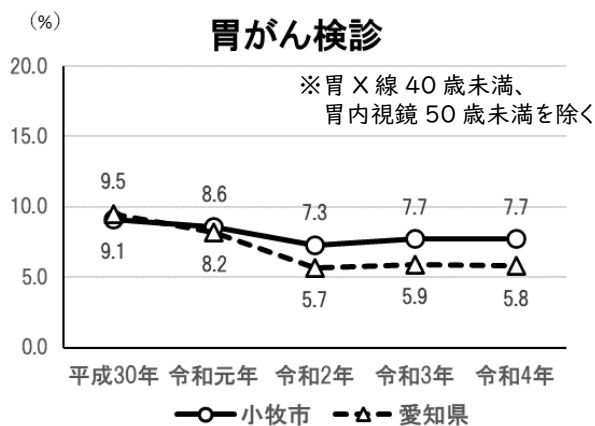


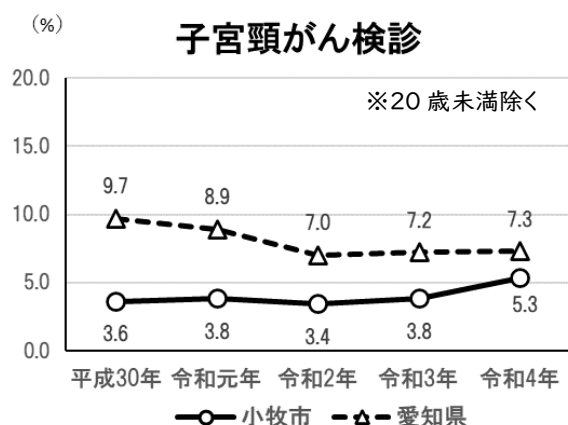
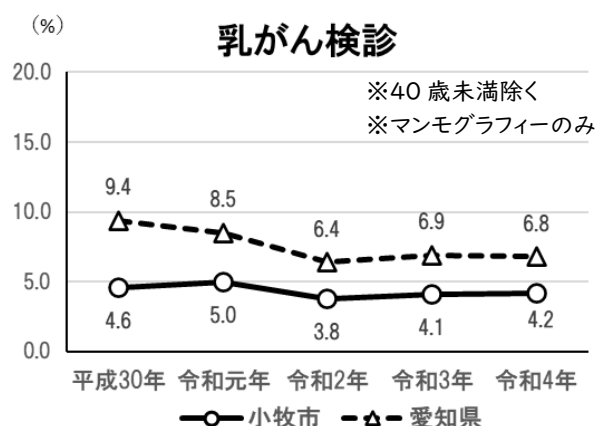
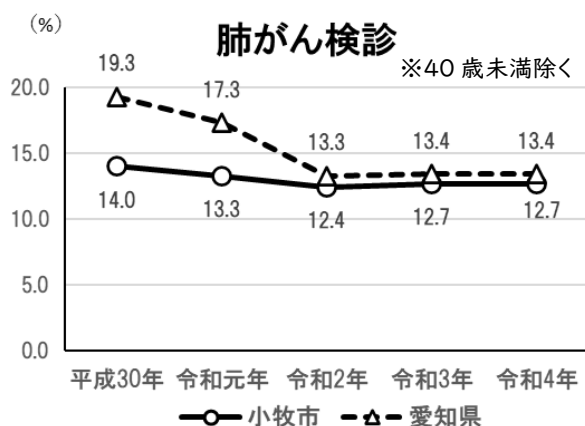
資料:KDB(国保データベース)システム

(4) がん検診の受診率

本市で実施している各種がん検診の受診率の推移をみると、胃がん検診と大腸がん検診の受診率が減少傾向にあり、肺がん検診、乳がん検診、子宮頸がん検診の受診率はほぼ横ばいで推移しています。また、胃がん検診と乳がん検診、子宮頸がん検診の受診率は10%以下と低い傾向にあります。

図表 12 がん検診の受診率の推移





※R4年度より、妊婦健診における
子宮頸がん検診受診者数を含む

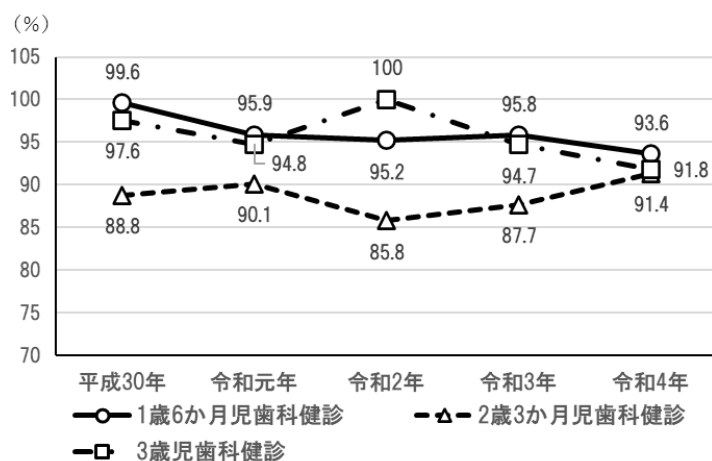
資料：小牧市の受診率：「健康・支え合い循環都市」の実現に向けた基礎データ

愛知県の受診率：「各がん検診の結果報告」（愛知県保健医療局健康医務部健康対策課発行）

(5) 乳幼児歯科健診の受診率

本市の乳幼児歯科健診の受診率は、1歳6か月児歯科健診と3歳児歯科健診は90%台で横ばいに推移しています。2歳3か月児歯科健診の受診率は80%台後半で推移していましたが、令和2年以降増加傾向にあり、令和4年の受診率は91.4%となっています。

図表 13 乳幼児歯科健診の受診率



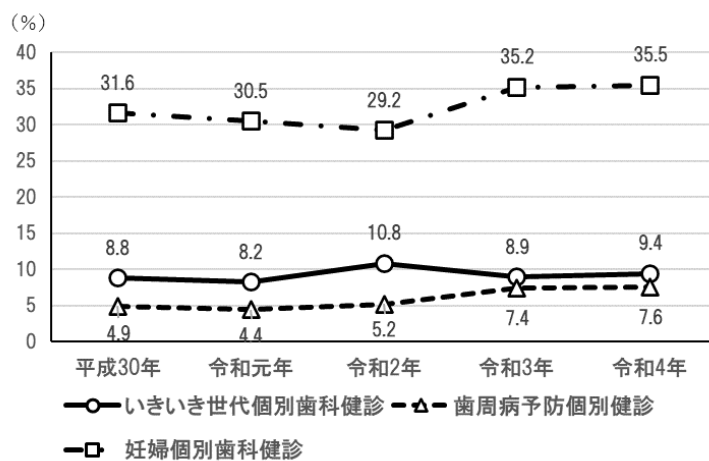
資料：こまきのけんこう

(6) 歯科健診の状況

40歳以上から 80 歳までの5歳刻みが対象のいきいき世代個別歯科健診と、20 歳から35歳までの 5 歳刻みが対象の歯周病予防個別健診の受診率は10%以下と低迷しています。

平成29年から開始した妊婦個別歯科健診の受診率は30%台で推移しており、令和2年から令和3年にかけての1年で6.0ポイントの増加がみられます。

図表 14 歯科健診の受診率の推移



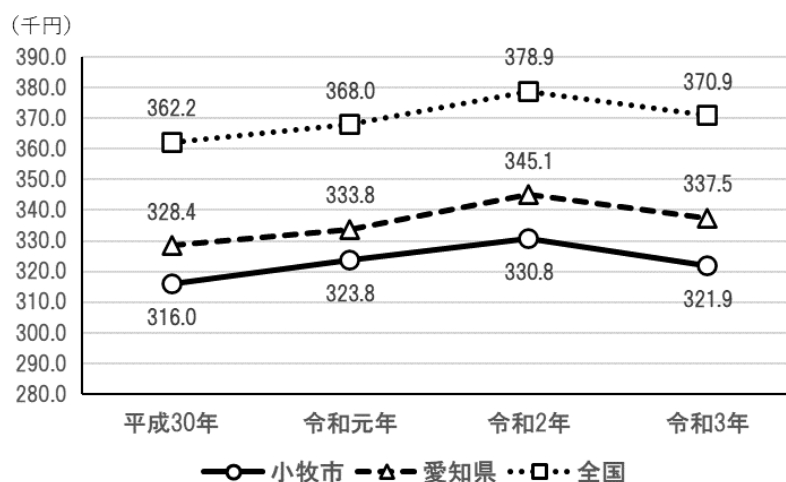
資料:こまきのけんこう

5. 医療・介護の状況

(1) 1人当たり国民健康保険医療費の推移

本市の年間1人当たり国民健康保険医療費は、全国や県と比較して低い値で推移しており、令和3年は全国と比較して4万円以上、県と比較して1万円以上低くなっています。

図表 15 1人当たり国民健康保険医療費の推移

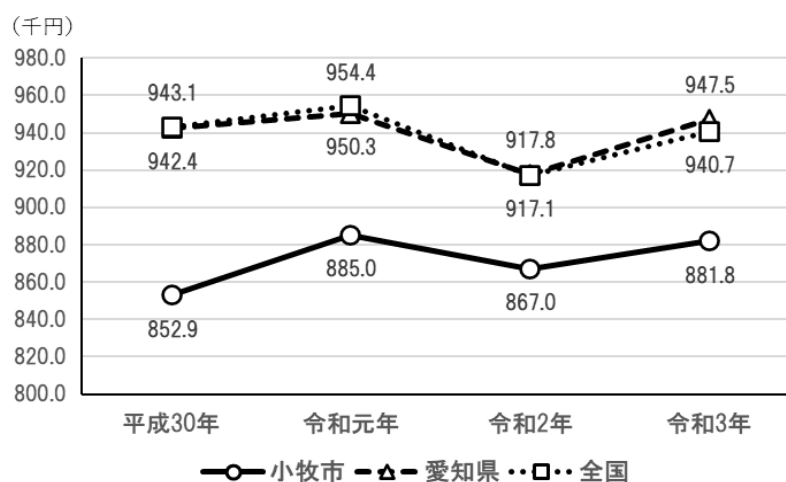


資料：「健康・支え合い循環都市」の実現に向けた基礎データ

(2) 1人当たり後期高齢者医療費の推移

本市の年間1人当たり後期高齢者医療費は、全国や県と比較して低い値で推移しています。令和2年は全国や県と同様に減少が見られましたが、令和3年にかけて再度増加傾向にあります。

図表 16 1人当たり後期高齢者医療費の推移

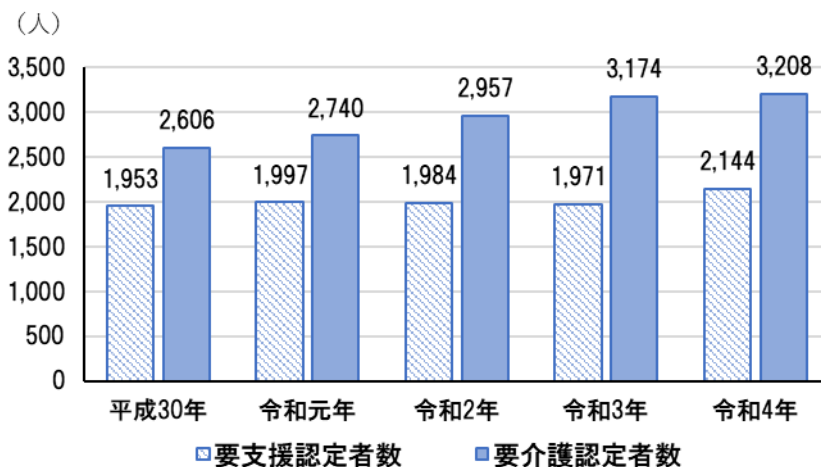


資料：見える化システム

(3) 要支援・要介護認定者数の推移

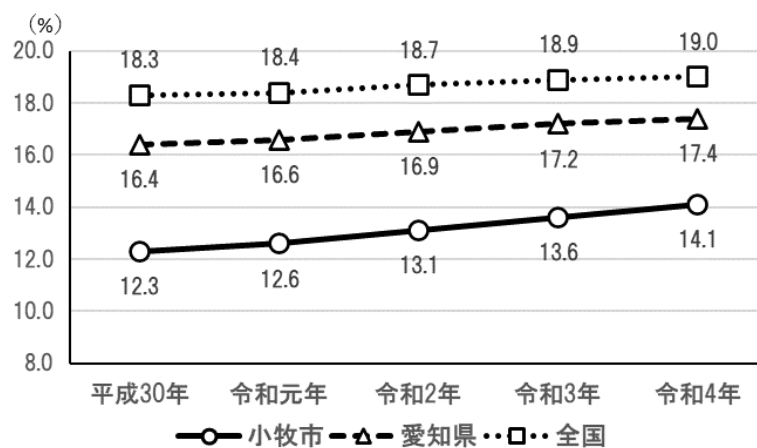
本市の要支援認定者数は、令和3年まで微減していましたが、令和4年には2,144人まで増加しています。要介護認定者数は年々増加傾向にあり、令和4年には3,208人となっています。認定率も増加傾向にありますが、全国や県と比較して低い値で推移しています。

図表 17 要支援・要介護認定者数の推移



資料:見える化システム

図表 18 要介護認定率の推移

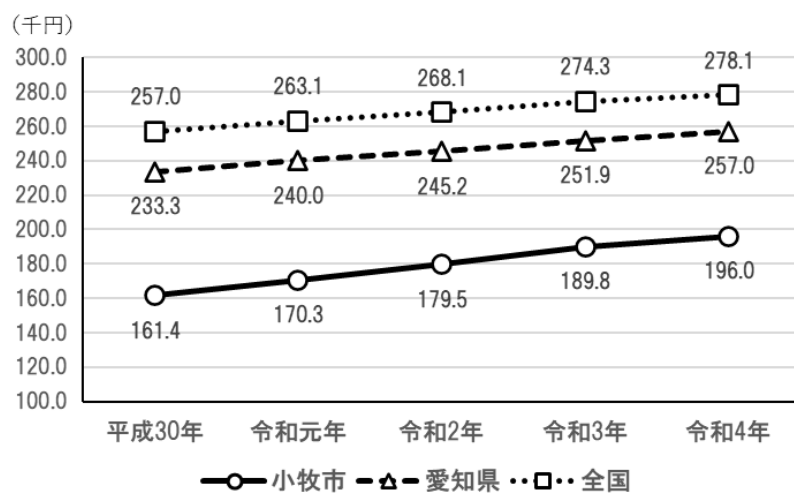


資料:見える化システム

(4) 第1号被保険者1人当たり介護給付費の推移

本市の第1号被保険者1人当たりの介護給付費は増加傾向にあり、令和4年には196,000円となっています。令和4年の愛知県の1人当たり給付費は257,000円、全国の1人当たり給付費は278,100円となっており、いずれの年も本市の1人当たり給付費は全国や県と比較して低く推移しています。

図表 19 第1号被保険者1人当たり介護給付費



資料:見える化システム

6. 市民アンケート結果

(1) アンケートの実施方法

一般市民調査

調査対象	小牧市在住若しくは小牧市内で勤務している人
調査方法	広報こまき、市公式 LINE 等に QR コード、URL を掲載し、Web アンケートの協力を依頼、希望者が回答した。加えて、市ホームページでも Web アンケートの協力依頼を行った。
実施期間	2023 年2月1日(水)～2月28日(火)
回収数	1,768 件

小中高生調査

調査対象	小牧市内の小学5年生、中学2年生、高校2年生又は高校2年生相当(定時制や通信制の場合)
調査方法	小学校、中学校では、学校配布のタブレットを用いて回答 高校では、QR コード、URL を掲載したチラシを配布し、希望者が回答した。
実施期間	2023 年2月6日(月)～2月28日(火)
回収数	2,875 件

保育園児・幼稚園児調査

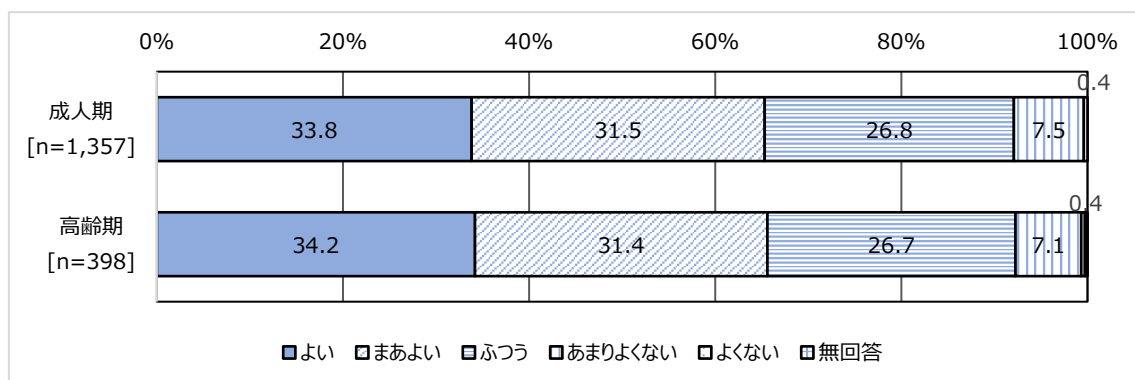
調査対象	小牧市内の保育園児・幼稚園児とその保護者
調査方法	保育園・幼稚園で、QR コード、URL を掲載したチラシを配布し、希望者が回答した。加えて、市ホームページでも Web アンケートの協力依頼を行った。
実施期間	2023 年2月6日(月)～2月28日(火)
回収数	248 件

※QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

(2) 健康状況

現在の健康状況をみると、健康状況がよい人は6割程度となっています。

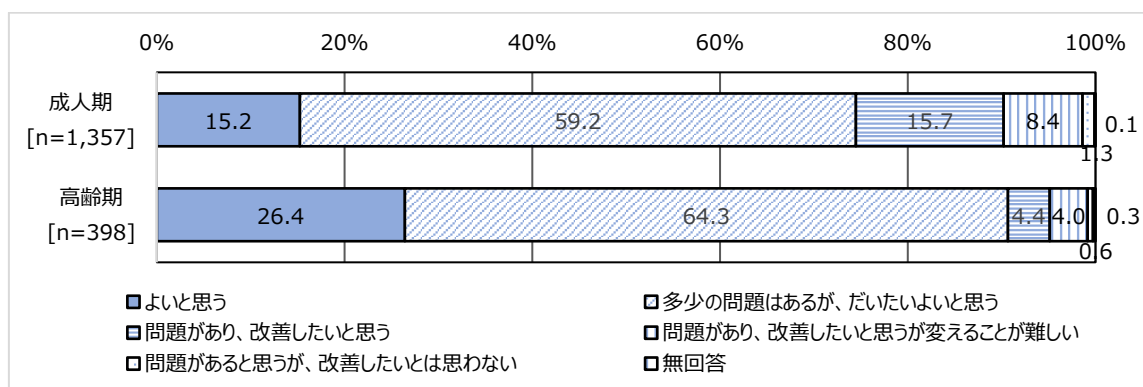
図表 20 現在の健康状況



(3) 食生活・生活習慣

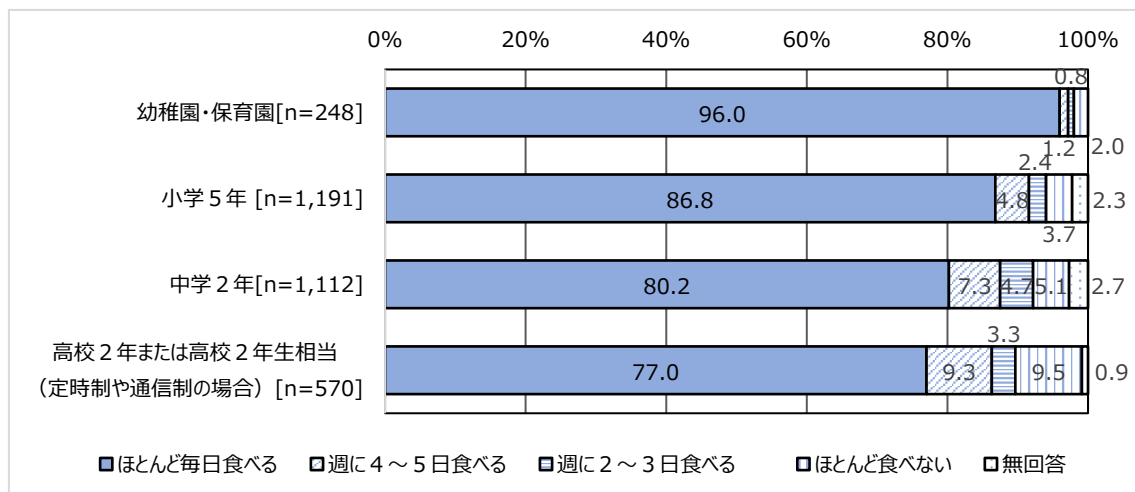
食生活について、成人期の約25%が何らかの問題を感じています。

図表 21 食生活について

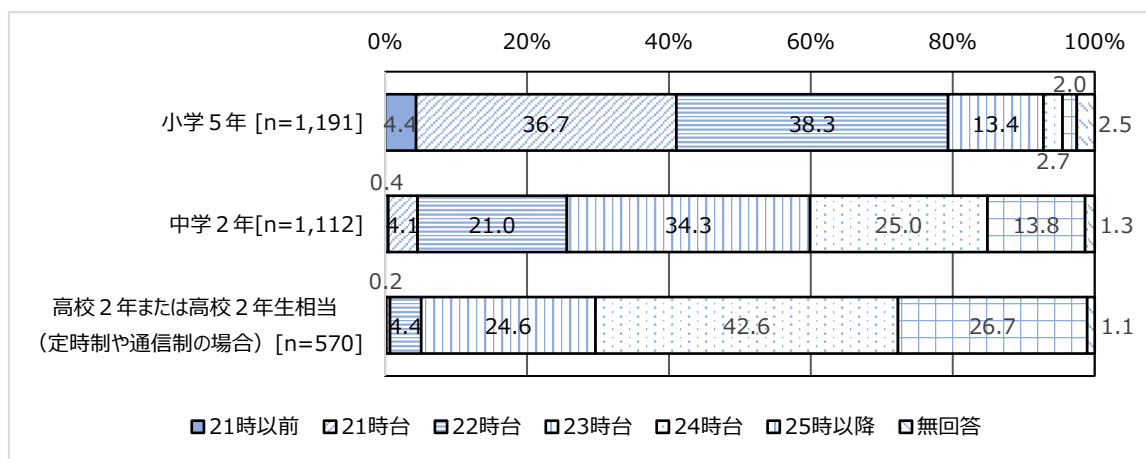


「朝食をほとんど毎日食べる」割合は、幼稚園・保育園児は 96.0%となっていますが、小学生、中学生、高校生と年齢が上がるにつれて下がっています。また、中学生、高校生は就寝時間が遅く、23時以降が中学生で約 7 割、高校生で約 9 割となっています。

図表 22 朝食について

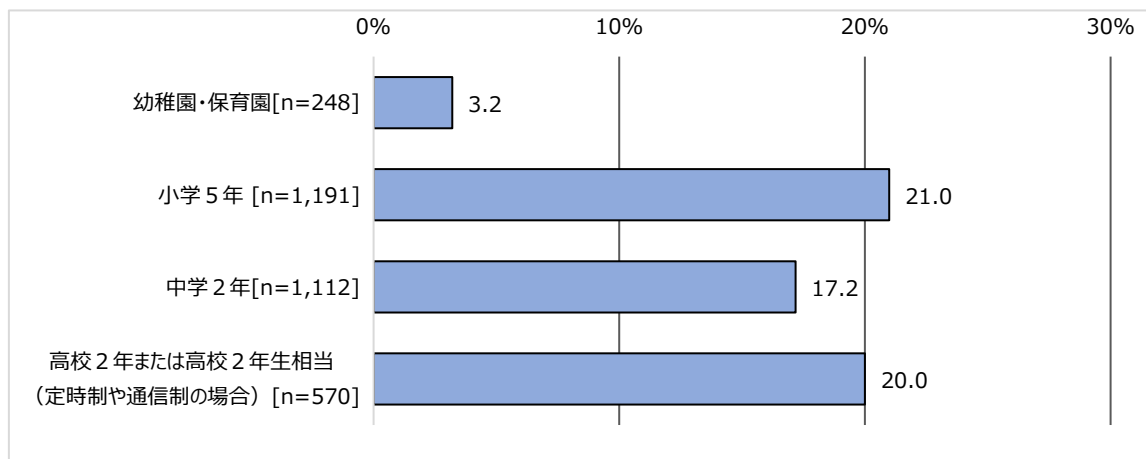


図表 23 就寝時間について



食育の経験について、幼稚園・保育園児で「経験なし」の割合は約3%と低くなっていますが、小学生、中学生、高校生では「経験なし」の割合が2割程度います。

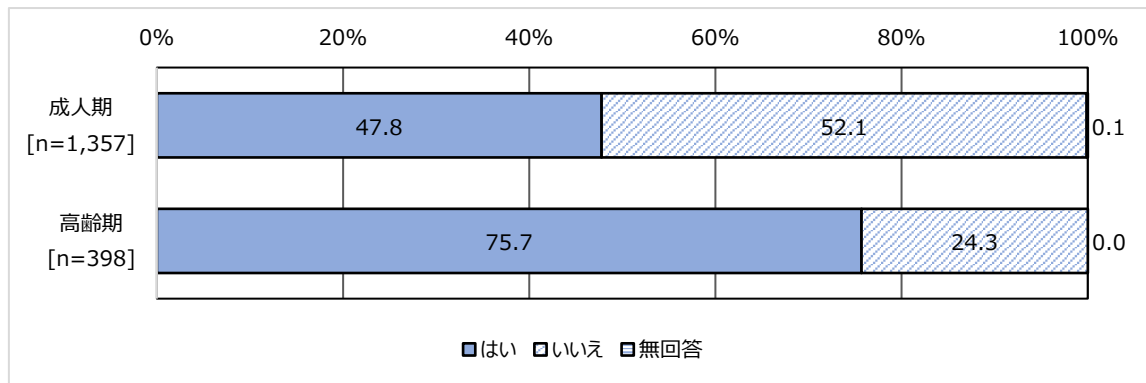
図表 24 「この1年で「食育」に関して経験したこと」で「経験なし」と回答した割合



(4) 運動

運動について、成人期では、運動している割合が半数以下となっています。

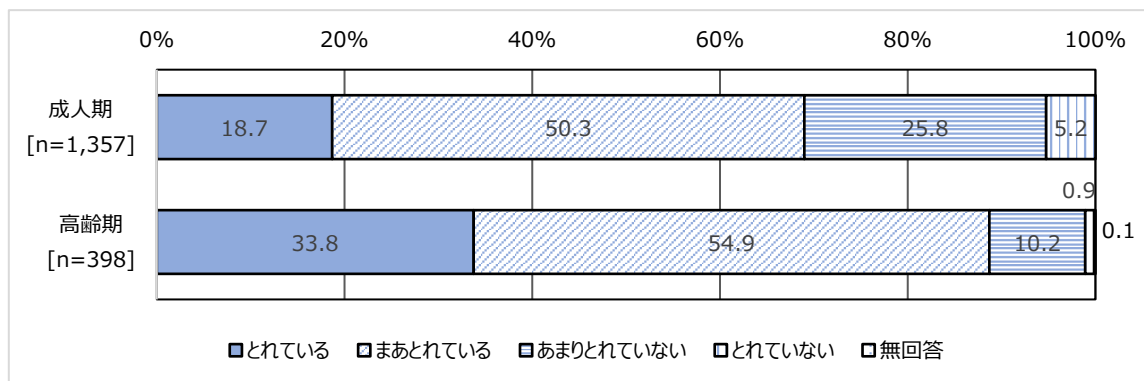
図表 25 1回 30 分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施について



(5) 心の健康・休養

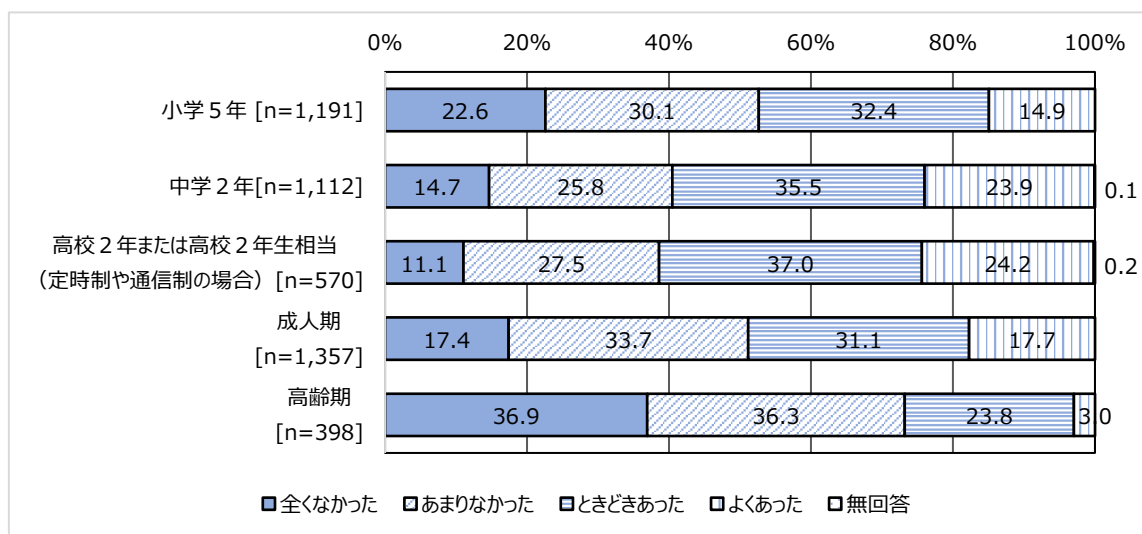
睡眠での休養をみると、成人期では3割程度が「あまりとれていない」、「とれていない」となっています。

図表 26 睡眠での休養について



この1か月のストレスの有無をみると、ストレスがよくあった人は、中学生、高校生では2割以上、成人期では2割近くとなっています。また、中学生、高校生、成人期の3割程度がストレスの発散、解消があまりできていない、できていないと回答しています。

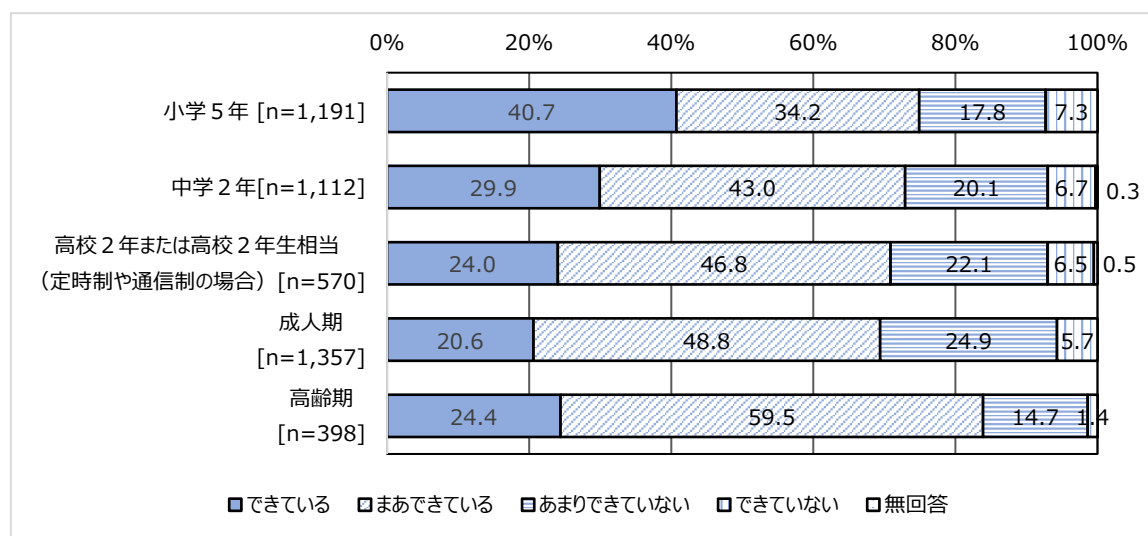
図表 27 この1か月のストレスの有無



(注1) 成人期、高齢期は、「この1か月間に、不満・悩み・苦勞などの耐えがたいストレスを感じたことがあるか」、小中高は「この1か月間に、不安や悩みなどのストレスはあったか」の設問となっている。

(注2) 成人期、高齢期の選択肢は「全くなかった」、「1～2回あった」、「時々あった」、「頻繁にあった」である。

図表 28 ストレスの発散、解消について

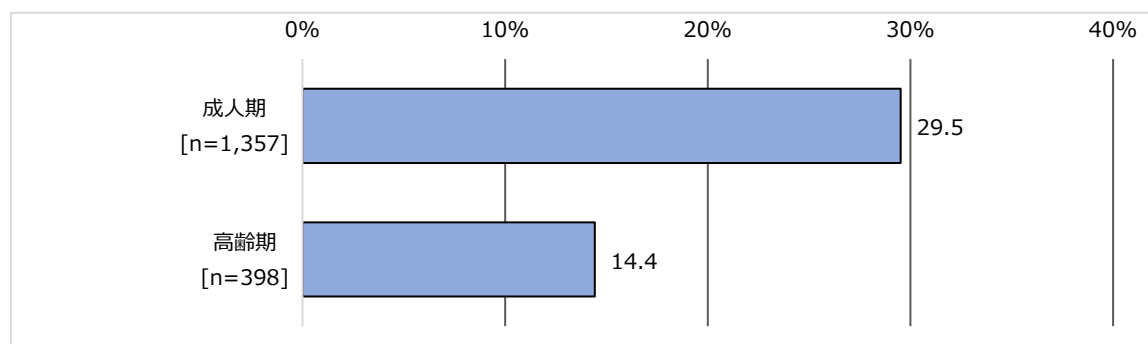


(6) 歯の健康

歯科受診について、受診していない人が成人期では約3割となっています。

また、オーラルフレイルの認知度について、高齢期では約6割が知っているが、成人期では知っている人が4割以下となっています。

図表 29 「この1年間に歯科を受診した理由」で「受診していない」と回答した割合



図表 30 オーラルフレイルの認知度

